

仏教とつながる憩いの場に



座禅は足がしびれるし、法話なんて難しそう――。

そんなお寺のイメージを覆そうと、県内の若手僧侶が始めた「寺's cafe」（テラスカフェ）が来年、5年目を迎える。会場はおしゃれなカフェやレストラン。座禅は椅子に座ったまま。「大切なことをひとつだけ」という法話は長くても10分ほどだ。パスタなどを食べながら、リラックスした雰囲気でお坊さんと自由に話すことができる。

企画しているのは、県内の臨済宗妙心寺派の僧侶5人。全員が30代だ。フェイスブックの紹介ページには、合掌を模した顔文字(〇人〇)も添えられている。

運営メンバーの1人で能成寺副住職の樋口雄文さん(31)は「お寺や禅を身近に感じてもらう

樋口雄文さん (31)

「お寺身近に」カフェ活動

えたら」と話す。

大学卒業後、鎌倉の寺での修行を経て今年10月に生家である寺の副住職に。甲府市東光寺町にある寺は、武田家ゆかりの甲府五山のひとつだ。

「仏教の教えを伝えられているか」「自分たちは必要とされているのか」。若手僧侶の間には危機感があつたという。一方で「御朱印集め」がブームになるなど、仏教や禅に対する関心は高まっている。そこに寺がつながるにはどうしたらいいか。

「寺で待つことにとらわれず、僧侶の側から街へ出よう」と、2014年にテラスカフェが始まった。自身は甲府に戻った昨年からは参加している。鎌倉での修行中、師匠が落語を聞かせてくれた。笑いや涙を誘いながら、人間の機微を伝える語りに感銘を受けた。落語には法話のヒントがたくさんある。「教えは書物の中だけでなく、インターネットの海にもあります」と、自身も落語を動画サイト「YouTube（ユーチューブ）」などを使って勉強中だ。楽しく深みのある禅の教えの説き方を日々模索している。法話を織り交ぜた寺でのライブや、アウトドアショップとコ

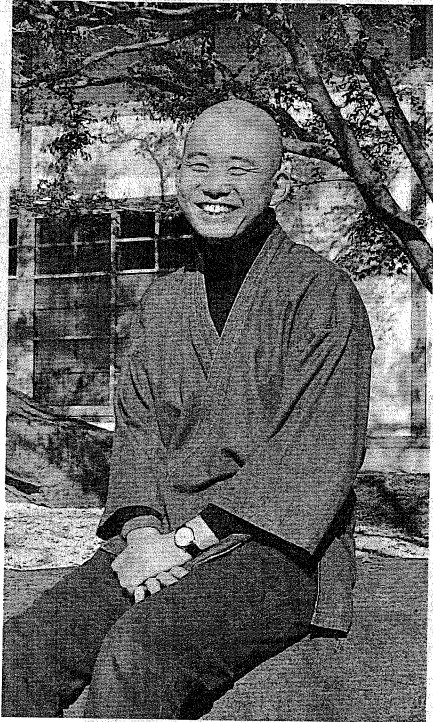
ラボしたお花見、みそづくりワークショップなど様々なイベントも開いている。参加者は20代から70代までと幅広い。精進料理や、お坊さんの一日についてなど素朴な疑問にも丁寧に答える。ただ、それだけではない。

「大切な人を亡くした方など、まわりの人には話しづらいこともあるかと思えます」。そんな人たちのために何ができるか。「禅の教えはどの時代にも通用します。悩みや悲しみに向き合うものの考え方や、穏やかに生きていくための暮らしのヒントがあります」と言う。

生とは、死とは……。悩みや悲しみを抱える人たちが気軽に立ち寄り、思いを打ち明けられる憩いの場になれば、とも思っている。

カフェの参加費は食事代金のみ。「のんびりとご飯を食べながら『意外とよかったな』と思ってもらえたら。思わぬ収穫や発見があるかもしれません」とほほえんだ。

次回は年明けの1月18日午後7時半から、昭和町の「パスタCafeかなりや」で。参加費は3千円。定員18人で事前予約が必要。問い合わせ・申し込みは樋口さん (fuekinokai@gmail.com) へ。(古賀智子)



能成寺副住職の樋口雄文さん（甲府市東光寺町）